

# MSNBC プロデューサーが辞職：このネットワークは国民を分裂させる癌だ

元局員が「一部の声」を増幅しているネットワークを告発

## 【Gretchain】

有名なニュース報道メディアに、とうとう三下り半を突き付け、激しい批判の言葉とともに飛び出した、勇敢な女性記者の話であるが、これは手記を公表しただけに貴重である。同じような話が数日前にもあった。こういうことは普通、黙秘されるから、もしすべてを含めるなら、わが国だけでも相当数あるのではないだろうか？ 最も痛ましく、かつ衝撃的なのは、彼女の先輩の古参ジャーナリストの言ったという「我々は癌だ、治療法はない。しかしもしあれば世界は一変するだろう」という言葉である。

主流メディアの抱えているものは、まさに「癌」というべき深い病巣だと思われる。本来、世界の情勢にも、言葉にも、最も敏感で、我々の指導者であるべきジャーナリストが、こういう事態に陥っているのは、ほかならぬ我々一般人の悲劇である。我々自身が今、犯罪者の道を歩くか、救世主の道を行くかの選択を迫られている。しかしこれは覚醒のチャンスでもある。今、奮起しようと思っているのは、この女性だけではないであろう。

例えば、言葉が死んでいるのがその兆候である。NHK の教育宣伝番組では、昔から千篇一律に、進化というものは「遂げる」ことになっている。こういうものは、人を心地よく眠らせ、何の刺激も与えない。これも、アリアナ・ペカリーさんの言っている、マンネリ脱出の一つである。

Jack Murphy @NeonNettle

August 4, 2020



前局員 Ariana Pekary いわく：MSNBC は「毎日のように、熟練したジャーナリストに悪い意思決定を強制している」

MSNBC (米ニュース専門放送局) の元プロデューサーが、激しい手紙を書いて、自分がなぜ役を降りるかを説明し、この左翼的な、反ランプ TV ネットワークを「癌」だと言い、アメリカ人の間に「国家的分裂を煽るものだ」と言った。

アリアナ・ペカリーは、MSNBC は「偏った一部の声」を増幅しており、「ジャーナリストたちに、毎日のように、悪い意思決定を放送させている」と言った。

ペカリーは個人的なウェブサイトにかこう書いた：――

「7月24日は、MSNBC の私の最後の日でした。私は次にどうすべきかわかりませんが、これ以上そこに留まることはできません。

「私の同僚たちはとても賢い人たちで、悪い人はいません。問題は仕事そのもので、**熟練したジャーナリストが、毎日のように、悪い放送内容を強いられているのです。**」

ペカリーはまた、何年も MSNBC で働いているうちに、人々が彼女に言ったことを教えてくれた。それ以来彼女は、このネットワークが社会に対してもつ、有害な影響について考えこむようになった。

「実を言うと、この癌が、国家的分裂を煽っているのです――この市民権危機の真ただ中でも」と彼女は言った。

MSNBC は「実質的に、編集の過程へと焼き付いている」と彼女言い、取材の意思決定は、視聴率を稼ぐことが最大の目的だ。「この産業のリーダーたちは、もたらされるダメージの大きさを認めるでしょう」と、その真相を明かした。

「我々は癌だ、治療法はない。しかし、もし治療方が見つかったなら、それは世界を変えるだろう」と、ある非常に有名なテレビの古参が、彼女に語ったと言う。

「このモデルは、考え方や内容の多様性を締め出すものです。なぜなら、このネットワークは、一部の声や出来事を増幅し、他のものを無視する習性をもつからです。すべて視聴率を押し上げるためです。

「コンテキストや、事実のデータなどは、しばしば聴衆には、あまりにも面倒なものと考えられています」と、ペカリーは後に加えて言った。

「そこには、ある程度の真理があるかもしれません。(我々の教育システムは、本当は、アメリカ人の批判的思考を、改善してしかるべきでしょう。)しかし、別の固い真理は、教えたり情報を与えたりすることは、ジャーナリストの仕事だということです。そして彼らが、そのもっと良い方法を考え出すことです。・・・

「彼らは聴衆を掴むための、もっと創造的な方法を考えることができます。ちょっとした、かなり基本的な、あらゆることが、現行のプロセスを改善できるでしょう。(今日の内容を、昨日より評価をえたものに、比べてみるのもよい。あるいは今日のオンラインの傾向が、どうであったか調べるだけでもよい)」

ペカリーが、「ある年長のプロデューサー」に聞いた話では、聴衆はニュースをニュースと認識することさえなく、ただ「慰み」にしているだけだという。

「このパンデミックや、非現実的な現実のロックダウンを通じて、私は、多くの人々が自分の人生を問い、この地球上で自分が何をしているのか、考えているのを目撃しました」と、ペカリーは続けた。

「私も多分その一人で、より大きな意味と真理を求めています。

「私はニューヨーク市の私の生活を愛し、ここから離れたくない限りにおいて、私は、近い将来バージニアに帰り、家族や友人と再会し、独立ジャーナリストの共同体に戻れたらよいと思っています。

「私はこの変化に対して、神経質にもなり、興奮もしています。COVID-19 よ、ありがとうと思っています。私は、不安定と共に生きることを学ぼうとしています。」

かつてのニューヨーク・タイムズ署名入り記事編集者で、最近この新聞をやめた人が、公開書簡に述べられたペカリーの「正直さ」を称えた。

MSNBC は、昨年、トランプ-ロシア癒着問題を押し進めることで、少なからぬ論争を起こし、特別顧問ロバート・マラー（ミュラー）が、やっとトランプの疑いを晴らすことになった。

今年早くにも、MSNBC は、大統領候補者のジョー・バイデンのビデオを、選択的に編集したとして非難された・・・(以下略)